

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】 EF-Wood プラント
	【事業主体】 エコファクトリー株式会社
	【所在地】 長野県小県郡丸子町
	【運転開始年】 平成 12 年
原材料および利用量	廃木材（発生量：1,000t/年）廃プラスチック（発生量 1,500t/年）
生産物（種類）	EF-Wood（建材 40 t /年、パチンコ部品 30 t /年、その他 10 t /年）
利用方法	住宅（デッキ、フェンス等）、住宅部品（フローリング、外壁等）、景観エクステリア（桟橋、ボードウォーク等）、パチンコ部品等として全国で利用
導入目的・経緯	廃木材と廃プラスチックの処理技術の進化、発展
設備仕様	粉砕機、選別機、計量・混合・造粒システム、押出成形機、2次加工機、塗装機 施設処理能力：3,000t/年
稼働状況	120 h / 週 （月～土曜日）
経済性関連データ	施設整備費 850,000 千円
導入効果	住宅メーカー2～3社、大手建設会社 10 社前後、建材商社 4～5社が同社製品を採用しており、リサイクル製品に関心を持ち積極的に採用していく企業が増えている。また、廃木材と廃プラスチックによるペレットが押出成型品のみならず、射出成型にも使用できることで需要は増大すると考えられる。
運営上の課題	廃木材の面では、建築廃材だけでなく、間伐材を含めたあらゆる木材をリサイクルできる技術の確立が望まれるところである。特に、木材の宿命である含水率の問題を製造工程の中で如何に効率よく管理できるかが重要である。また、粉砕粒度、パウダー表面の処理等に関わる問題も当面の課題である。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例